

モチベーションが上がる 看護研究の始めかた

看護の質向上には欠かせない試みではあるものの、スタッフにとっては“やらされている”と感じてしまうこともある看護研究。プライベートな時間を割くこともあり、「逆により看護ができなくなるのでは」と危惧するナースも少なくないのではないのでしょうか。

しかし、看護研究は、考え方次第で毎日の看護の活力となります。現場には研究を始めるためのヒントが多く転がっており、そこから生まれた研究結果は、臨床、ひいては看護界全体に還元できる可能性も秘めているのです。本特集によって看護研究に対する見方が変わり、その醍醐味を実感していただけたら幸いです。

看護研究は何のために行なうのか ● 316 ページ

看護研究を行なうことで、意図せずともさまざまな波及効果が生れます。このことを、看護大学教員として、臨床ナースの看護研究を支援し続けている著者が解説します。研究はつらいことばかりではないのです。

仕事と看護研究を両立させるために 看護研究支援体制の確立をめざして ● 319 ページ

《コラム・研究は「私の成長」への近道だった》

《コラム・上司として研究にかかわって》

「看護研究はきつい」というイメージを徐々にでもなくしていくためには、研究者に対するサポートが何より重要。「やってよかった」という思いを育てるための取り組みを、当事者のコラムを交えて紹介します。

看護研究の進めかた

テーマの種を見つけて結果が芽を出すまで ● 324 ページ

やるからには、患者さんや自分のスキルアップに役立つ研究をしたいけれども、そのテーマを選ぶのが大変。しかし、日々のケアで感じていたちょっとした疑問やひらめきのなかにこそ「よりよい看護」が隠れているのかもしれません。

エンゼルケア研究で変わった私たちのケア ● 329 ページ

「なぜエンゼルケアに家族が参加していないのか?」。そんな疑問から始まった研究と、この結果がもたらした「病院内の常識の大改革」を紹介します。看護研究の利点は、あなた 1 人のものに留まらないのです。

自分たちの発見を発表すること

院内から学会発表へ飛び出そう ● 333 ページ

研究を行なうだけでなく、その成果を発表することで、自分のためになることはもちろん、果ては看護の発展にもつながる可能性があります。看護という仕事やその意義を、広く伝えることにもつながるはず。積極的な学会発表のススメです。